

# 「ませこぜの社会」を目指して

女優 東ちづる

AZUMA Chizuru



## PROFILE

1960年、広島県生まれ。ドラマ、司会、講演、執筆などの各分野で幅広く活躍中。骨髄バンク、ドイツ国際平和村などのボランティア活動を20年以上続けており、2012年には、アートや音楽などを通じて、違うということをハンディにしない、どんな状況、状態でも誰も排除しない「ませこぜ」の社会を目指す、一般社団法人「Get in touch」を設立し、代表として活動中。

広島で平和教育を受けながら育った私にとって、平和や人権は、幼い頃から身近だったように思います。国内外でいろいろなボランティア活動をするようになったのもその影響からでしょうね。病気や障害の有無、国籍、宗教、思想などの違いに関わらず、全ての人が自分らしく生きられる社会になればいいなあと思っています。

人道援助団体「ドイツ国際平和村」の支援に携わるようになったのは、1999年から。平和村では、紛争で傷つき、母国での治療が難しい子どもたちを受け入れて、無償で医療やリハビリ、教育を提供し、母国に帰っています。子どもたちはひどい傷を負っていますが、やはり子どもは子ども。みんな本当にかわいい。

子どもたちは、心身ともに深い傷を負い、言葉も文化も違う国から来ていますが、その表面的な「違い」に捉われず、優しさや悲しさなどの感情を共有し、共に生きようとする力があります。子どもたちとボランティアとの間も同じです。喜びや苦しみなどの感情を分かち合うことで、

癒やしや支え合いが生まれ、平和村はホスピタリティーにあふれています。

戦争がなくなり、平和村が必要なくなること——。これは、平和村最大の目標です。そのため、平和村はドイツでの医療支援だけでなく、国内外から一般の人を受け入れて平和教育を行ったり、幼い子どもが親元を離れずに治療を受けることができるように、母国での医療ケアの援助活動も行っています。私は日本で、平和村の子どもたちの写真展などを開催し、現状を知ることから始まる「種まき」のような活動もしています。

2011年12月、「違う」ということをハンディにしない、誰も排除しない「ませこぜの社会」を目指して「Get in touch」の活動を始めました。「ませこぜの社会」とは、人々をある特性でカテゴリライズしてマイノリティーへと追いやるのではなく、それぞれが違いを生かしながら自分らしく暮らすことができる多様性社会です。アートや音楽、おいしいものなど、ワクワクするイベントや展示会、プロモーションビデオ、ライブなどを企画して、「ませこぜ」

の居心地の良さを伝えています。縦割り社会では何も変わらない。省庁・政治・企業・団体・家族・個人、あらゆるジャンルを超えてつながれば、他人事だと思っている人も楽しみながら問題に気付ける。こうした種まきのような活動がやがて芽を出すと信じています。みんな目指しているのは、幸福、社会の成熟ですから。

2020年のオリンピック・パラリンピックに向けてバリアフリーが叫ばれていますが、完璧なインフラ整備は非現実的かもしれません。でも、私たちの心にバリアがなければ、自然に声を掛け合い、手を差し伸べあえる「ませこぜの社会」は難しくないと思います。「ませこぜの社会」は全ての人にとってハッピーです。レッツ、ませこぜ。Get in touch!

「なんとかしなきゃ!プロジェクト」は、開発途上国の現状について知り、一人一人ができる国際協力を推進していく市民参加型プロジェクトです。ウェブサイトやFacebookの専用ページを通じて、さまざまな国際協力の情報を発信していきます。

なんとかしなきゃ で 検索